

第10回

ここらへんで繁殖のお話し(その10 お産の注意のおはなし2)

(有)シェパード 獣医師 松本大策

みなさんもう豆まきは済まされましたか？なんてのんびりしたことを言ってる場合じゃないですね。昨年の世界的異常気象でオーストラリアでも北米でも牧草や穀類が不作です。繁殖経営のみなさんは、どうか自給粗飼料をしっかり作ってください。和牛なら、夏場にトウモロコシのホールクロップサイレージを作っておけば、ほかの粗飼料との組み合わせで濃厚飼料も使わない経営だってできますからね。これこそ足腰の強い自給経営というものです。

母牛の繁殖のお話し 10

前回は、だらだらとお産のお話しをしていたら終わりきれなかったので、今月もその続きです。

生まれた！

さて、ようやく赤ちゃんが生まれました。みなさんは、まずなにをしますか？バンザイ？ それはいいですね、しっかり祝ってあげてください。でもその前に、生まれてすぐ死ぬ子牛が増えていることを知っておきましょう。せっかく生ませたのに、バンザイしている間に呼吸が止まっていた、なんて目も当てられませんからね。



生まれたばかりの子牛は、なんかボーっとしていて、魚河岸に並んだ魚のように口をパクー、パクーっと開いてるだけで、たいした呼吸をしていないことが多いです。これは、1つは気道に胎水が引っかかっているため、もう一つは、生まれるときに脳貧血に陥っているためです。ですから、子牛が生まれたら、まず最初に子牛の後足を持って逆さづりにしてやるのです。これで飲み込んでいた胎水も吐き出しますし、頭に血液が巡って呼吸中枢がシャンとしてくれます。目安としては、ぶら下げている子牛が頭を起こしてくるまで。この頭を水平に保とうとする反射を頭



位保持反射といいます。

つり下げるのが大変だったら滑車やチェンブロックを使っても良いし、頭を下にしてワラ束に寝かせかけてもかまいません。

頭位保持反射が出たら、子牛をおろして手を鼻に当てて、鼻できちんと呼吸できているか確かめましょう。鼻息が感じられない場合は、気道のどこかにまだ胎水が引っかかっている可能性があるなので、再度つり下げます。

万が一、生まれたときに仮死状態で呼吸をしていない場合は、子牛の舌(ベロ)を思っきり親指の爪と人差し指の腹でつまんで引っ張ってみてください。かなりの呼吸回復効果があります。だって、呼吸停止から獣医さんと呼んだところで、15分もかかったら子牛は死んでしまいますからね。やれるだけのことはやってあげましょう。最近、大型牛の出生時の事故が多いのですが、大半は子牛が生まれたあとにいつの間にか呼吸が止まっていた、というものです。注意しましょう。



母牛に子牛をなめさせるのも、母子ともにとっても良いことです。母牛は母性本能が強く刺激されて泌乳が良くなりますし、母牛の唾液の中には呼吸興奮物質が含まれているので、子牛の呼吸も落ち着くそうです。

子牛の呼吸が整うのを確認したら、子牛のおへそを消毒してから正座(伏臥といいます)させ

ましょう。このとき頭を起こしていたらほとんど心配はいりません。初乳を搾って一口飲ませてあげましょう。この「一口飲ませる」ということには、とても大切な意味があります。初乳のお話しは次回詳しくしたいと思いますですが、まず一つ目の意味は「消化管ホルモンを分泌させて第4胃内に残っている胎水を下部消化管に送り出す」ということです。もう一つは、腸の粘膜の表面を初乳がコーティングしてくれることです。その意味は次回にしましょう。

